

【4年】

○=よい点

●=課題

| | |
|-------------------------|--|
| 国語 | |
| ■児童の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○読書に慣れ親しんでいる児童が多い。 ○音読の宿題など、意欲的に取り組む児童が多い。 ●語彙が少なく、自分の考えや意見を詳しく文章に書いたり話したりすることが苦手な児童がいる。 ●黒板の板書を素早くノートに書き写すことが苦手な児童がいる。 ●漢字を長期的に記憶しておくことが苦手な児童がいる。 |
| ■指導についての課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・様子や行動、気持ちや性格を表す語彙の習得を図る指導の充実 ・情景を想起しながら音読する力の向上を図る指導の工夫 ・文の構造を意識して読み取りを行うための指導法の工夫 ・文や文章の中で習得した漢字を使用する習慣づくり ・読書の幅を広げ、知識や情報を得ることに役立つ読書指導の充実 |
| ■授業改善に向けての具体的な方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に出てくる言葉や熟語の意味をその都度説明したり辞書、辞典等を活用して自分で調べたりする時間を確保する。 ・主語と述語を確認しながら読み取ることを習慣づける。 ・伝える内容を明確にし、段落を意識して文章を書く指導を行う。 ・漢字の反復学習を取り入れる。 |

| | |
|-------------------------|--|
| 社会 | |
| ■児童の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習に対する興味・関心は高い。 ○水が届くしくみやごみの処理、自然災害への対応などについて、人々の安全で健康な生活と関連付けて理解することができる。 ●調べた事実から、分かったことを表現することに課題がある。 ●都道府県や23区の特色を、各種資料から読み取ることが苦手な児童がいる。 |
| ■指導についての課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習のために考察する時間の確保 ・図やグラフの提示の仕方の工夫 ・資料と関連させた表現の仕方についての指導の工夫 |
| ■授業改善に向けての具体的な方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が学習課題を身近に感じたり理解しやすかったりできるように題材を提示し、生活と関連付けた発問をする。 ・ICTを活用し、実際の写真や映像などから児童が実感を伴って学習できるようにする。 ・表現するときの型を提示し、調べた事実だけでなく、分かったことや考えたことを書いたり発表したりできるようにする。 ・都道府県や23区の特色が分かる身近なニュースなどを日々紹介し、地理的特色や特産物など、各地域の特色の定着を図る。 |

算数

| | |
|-------------------------|--|
| ■児童の状況 | <ul style="list-style-type: none">○課題に対して解決しようと意欲的に取り組んでいる。○問題を図に表し自分なりの解法で問題解決したり、自分の言葉で説明したり振り返ったりしようとする児童が増えている。●掛け算九九や基本的な四則計算の技能が身に付いておらず、個別対応が必要な児童が複数いる。●手先が不器用で、線を引いたり作図をしたりするのが苦手としている児童が多い。●学習した内容を理解していても、応用したり、別の場面で活用したりする力が弱い。 |
| ■指導についての課題 | <ul style="list-style-type: none">・個に応じた思考力、計算や作図の技能の向上を図る指導の工夫・数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフ等に表したり読み取ったりする力の定着を図る指導の充実・自分の考えを正確に相手に伝えたり、説明から相手の考えを正しく理解したりする力の向上を図る指導の充実・タブレットの効果的な活用・提示方法の工夫 |
| ■授業改善に向けての具体的な方策 | <ul style="list-style-type: none">・児童が興味関心をもつような学習課題の提示を行う。・基礎的な問題を繰り返し行うことで、基礎的な技能の定着を図る。・問題解決の自力解決の場面と全体検討の場面を設定し、学びを深める場面を適宜設定する。・ものさしやコンパス、分度器を使っての作業では、手順を1つ1つ確かめながら丁寧に指導する。反復練習ができるように授業内容を工夫する。・実際に計測するの活動を通して、数や量の概念を正しく理解し、身近な場面で活用できる力を伸ばす。・算数少人数学習において、個に応じた指導法を工夫する。・デジタル教科書を活用し、意欲を高めたり理解を深めたりする。 |

理科

| | |
|-------------------------|--|
| ■児童の状況 | <ul style="list-style-type: none">○季節の変化を感じながら生き物や植物などに親しみ、すすんで観察しようとしている。○理科室の使い方、実験道具の扱い方の約束を守り、実験に意欲的に取り組む児童が多い。●実験や観察には意欲的に取り組むが、目的があいまいで、その結果が何につながっているのか理解することが苦手な児童がいる。●実際に生き物を見たり扱ったりすることの経験が少なく、問題意識をもったり予想を立てたりすることが苦手な児童がいる。 |
| ■指導についての課題 | <ul style="list-style-type: none">・問題を見いだす時間の確保・自然や生き物とかかわる体験の充実・実験や観察活動の際に事前指導の工夫・正確に実験・記録する力を養う指導の工夫・考えたことを説明するために協同学習の充実 |
| ■授業改善に向けての具体的な方策 | <ul style="list-style-type: none">・違いや共通点を考えやすくするためにイラストや動画などを使い、視覚的に違いや共通点を分かりやすくする。 |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・畑に出て虫や植物を観察したり教室で生き物を飼育したり等、自然に親しむ経験を高める。 ・実験の際に実際の器具や実験する対象物を見せながら、実験の注意事項や観察する際の視点を伝える。 ・苦手な児童が考察を書きやすいよう、よく書けている児童の考察をICT機器で共有する。 ・自分の考えを説明しやすくするためにグループで説明させたり、話形を示したりする。 |
|--|---|

| | |
|--------------------------------|--|
| <h2 style="margin: 0;">体育</h2> | |
| ■児童の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○大半の児童が意欲的に体を動かし、体育を楽しもうとしている。 ○「前回の記録を更新したい」「チームで協力して勝ちたい」など具体的な目標をもって取り組んでいる児童も増えている。 ●運動能力に個人差があり、技を習得しきれない児童がいる。 ●勝ち負けにこだわり、安全面でのきまりを守れなかったり、運動の本来の目的から逸れてしまったりすることがある。 |
| ■指導についての課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動量の確保 ・個人の能力に合わせた場や指導の工夫 ・運動の目的を理解し、めあてをもって取り組むことのできる指導の工夫 |
| ■授業改善に向けての具体的な方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・準備を素早く済ませ、運動時間を十分に確保する。 ・ワークシートを使い、目標を立てたり、振り返ったりする時間を確保する。 ・互いの動きを見合ったり画像に撮った自分の動きを確認したりなど、運動のコツや良い点を見付けられるようにする。 ・チームで作戦を立てる時間を取り、動き方のシミュレーションができるようにする。 ・運動の目的が、技の向上やルールの発展であることを伝え、勝敗以外の視点も意識させる。 |

| | |
|---------------------------------------|--|
| <h2 style="margin: 0;">総合的な学習の時間</h2> | |
| ■児童の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○調べる活動に関して目的と興味をもって意欲的に活動することができる児童が多い。 ○自身の経験や知識から考えをもつことができる児童もいる。 ●調べたいことに合わせて情報を収集したり整理したりすることが難しい児童がいる。 ●ICTを使った調べ学習やまとめの活動に慣れてきているが、内容を理解しないまま、ただ情報をコピーしたり画像を取り入れたりして終わってしまう児童がいる。 ●体験の目的や活動の意図を理解して自分の考えをもつことが難しいため、まとめる活動で困ってしまう児童がいる。 |
| ■指導についての課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題や活動に見通しをもちながら取り組ませるための指導の工夫 ・目的に合わせて情報を集めたり整理したりする力の向上を図る指導の工夫 |

| | |
|-------------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えが伝わるようにまとめる力を養う指導の工夫 ・生活体験の個人差を補うための体験学習の機会の確保 ・ICT機器から情報を得たりまとめたりする技能の向上 |
| <p>■授業改善に向けての具体的な方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近なものを例で示すなど、興味をもって意欲的に取り組めるよう工夫する。 ・情報の集め方や整理する方法を具体的に提示しながら指導する。 ・発表活動等でICTや模造紙など、活動にあったまとめ方を指導する。 ・施設を見学したり、地域の方々と触れ合ったりする機会を設けることで、体験活動を通して児童が探究課題に迫れるようにする。 |